

## 前回審議会での主な意見

- ① 大学生の奨学金が大事な問題であると考える。奨学金の問題を入れてはどうか。
- ② 青年期・ポスト青年期にも基本的な力を育む取組がほしい。「豊かな心」が必要（自然体験活動、社会体験活動など）。
- ③ 子育て支援に、10代の親など困難を抱えながら若年層で親となった人への支援を入れてはどうか。
- ④ 自殺防止は、相談機能の強化や子ども自身に相談できる力を持たせることが大切。
- ⑤ 「異性への性的関心」は、(LGBTに配慮して)「性への関心」としてはどうか。
- ⑥ 「年齢期」と言うと、その時期にこれできていないといけなるととられて不安になる人がいるかもしれない。「発達段階」という言葉にしてはどうか。
- ⑦ 「胎児期」というのは必要ないか。
- ⑧ 40歳近い人も計画に含まれていることに違和感がある。子どもと40歳近い人を同じ理念でまとめていいのか。
- ⑨ 「青年期」「ポスト青年期」は、もっと別の表現にした方がいいのではないか。
- ⑩ 計画のテーマの「自立できる社会」について「多様な自立」とか「幸福な」といったキーワードを入れてはどうか。
- ⑪ 「困難を抱える」の表現を「支援を要する」としてはどうか。
- ⑫ 「障がいを抱える」の表現を「障害のある」としてはどうか。
- ⑬ 相談機関のネットワークがあるので、ネットワークについても記載してはどうか。
- ⑭ 「家族のふれあい時間の増進」の項目で「長時間労働是正」「WLB」「年休取得促進」とあるが、位置づけられるのか。
- ⑮ 「経済的困難を抱える家庭」について、支援の内容が手当・給付ばかりである。受け止める団体やその活動につなげることが必要ではないか。
- ⑯ 「地域の文化・習わしを体験する機会の提供」とあるが、習わしを体験しないといけな  
いのか。縛られる感じがするので言葉を選ぶべき。
- ⑰ 「国際交流活動の推進」で「異文化理解」とあるが、今は一緒に労働を為していく次代で、「一緒にどう生きていくか」という施策が必要。
- ⑱ 「子育て支援」や「社会環境の浄化」など古い言葉が使われている。新しい計画として表現を工夫した方が良い。
- ⑲ 「性教育の充実による性的被害防止」とあるが、これだと被害者にも悪いところがあると思われてしまわないか。「人権教育」としてはどうか。